

## 一般演題(2) 13:40~14:05

座長 見供 修 (国立沼田病院)

## 5. 前立腺癌の重粒子線治療における QOL 調査

若月 優, 辻 比呂志, 石川 仁  
柳 剛, 鎌田 正, 辻井博彦

(放射線医学総合研究所)

【目的】 アンケート調査によって、重粒子線治療を施行した前立腺癌患者の QOL の経時的変化を調査し、検討を行った。【対象と方法】 2000年4月から2003年1月までに当院で重粒子線治療が施行された前立腺癌患者123例中、アンケートが少なくとも重粒子線治療前、直後、治療後1年の3回集計可能であった99例を対象とした。年齢は53~83歳(中央値70歳)、QOL調査票にFACT調査票を使用した。重粒子線治療前、直後、1年後、3年後にアンケートを行い、FACT-G score, Total FACT-P score, 及び各項目について解析した。【結果】 FACT-G score, Total FACT-P score はともに治療前、直後、1年後で大きな変化が認められなかった。項目別には、身体状況、活動状況に変化はみられず、社会的・家族との関係、前立腺がんサブスケールは軽度の低下、精神的状態は改善が認められた。【結語】 前立腺癌に対する重粒子線治療は QOL を損なうことのない治療であると考えられた。

## 6. ラジオ波治療におけるクリティカルパスの導入を試みて

前澤 薫, 浅井佐智江, 金子由美子  
(群馬大医・附属病院・北6階看護室)  
小山 佳成 (群馬大医・附属病院・  
放射線科, 放射線部)

当院核医学科では、IVRの一環として年間35例のラジオ波焼却術治療を実施している。ラジオ波治療の入院期間は5日前後である。この短期間で患者に質の高い医療や看護を適切に提供することを目的に、患者用・医療者用クリティカルパスを作成し2004年1月より導入した。その後7月現在までに13例の患者に使用した。その結果、①ラジオ波治療に関する全体の流れがわかりやすく、統一した看護が提供できる。②患者は事前に入院から退院までの治療や看護の流れを把握することができるため、医療者と共通理解ができ、インフォームドコンセントにつながるツールとして利用できるとわかった。今後も患者やスタッフの反応や意見を聞き発展させていく必要があると考え、現在までの過程を報告する。

## 7. フェンタニルパッチ、オキシコドン導入後の当院での麻薬使用の現状

堀田 久子 (伊勢崎市民病院 薬剤部・  
緩和ケア推進委員)

高橋 育 (同 緩和ケアチーム)

【目的】 癌性疼痛には従来からモルヒネが使用されていたが、H14年7月にフェンタニルパッチ、H15年8月にオキシコドンが導入されてからの麻薬施用状況を報告する。【方法】 H14年10月からH16年6月まで各薬剤の施用量を3ヶ月毎に集計し比較した。モルヒネ60mg、フェンタニル2.5mg、オキシコドン40mgを等価として比較した。屯用に施用される塩酸モルヒネは集計から除外した。【結果】 硫酸モルヒネ(硫モヒ)は最多時期に比し最低4割まで減少し、オキシコドンは最多時期で硫モヒの3割を超え、フェンタニルパッチは最多時期で硫モヒの5.4倍に達した。【まとめ】 この結果から個々の患者に合ったオピオイドの選択及びオピオイドローテーションが行われ始めたと思われる。

## 一般演題(3) 14:05~14:30

座長 村松 博之 (桐生厚生総合病院)

## 8. PDA を利用した放射線治療患者のデータベース管理

池田 一 (館林厚生病院 放射線科)

【目的】 PDA (Personal Data Assistance) は個人の情報管理に広く使われるようになってきているが、今回このPDAを利用して放射線治療患者の簡易データベースを作成し、日常診療に役立つかどうか検討したので報告する。【方法】 PDAはPalm (CLIE T600C/CPU Motorola 68vz328)を使用し、applicationはJfile ver 4.20 (Lnad-J echnologies) および変換ソフトとしてJfedit PRO ver 3.22 (Hugoland)を使用した。オリジナルの治療患者データベースは元々PCで入力していたものをCSV形式に変換し、Jfedit PROに取り込んだ後整形し、Palmに流し込んだ。以後大量データの一括入力にはPC側で、少数例のデータ入力はPalm側でもおこなった。【結果】 現在までに1977~2003年までの治療患者約900名超(50名/年前後)を登録し、カルテ等より情報入手次第データの追加・修正を行っている。【結語】 文字情報しか利用できない弱点はあるものの携帯容易であり、瞬時に起動でき、簡単にデータにアクセスできる利点をもっており、日常診療に役立つと考えられた。